6-17　実践協力校における授業実践
事例⑰　横須賀市立常葉中学校
第３学年：社会科〔公民的分野〕

ポイントになる
主な学びのプロセス



・地域の課題に気付く
・課題について考える

Ⅰ　単元計画

１．単元名　　第３学年　社会科（公民的分野）
「　これからの経済と社会～横須賀市の経済情勢を追究しよう～　」

２．単元の目標
①現在の横須賀市の経済の状況について課題を設定し、既習事項や生活体験から仮説を立て、追究する。
②追究した成果を発表し合い、横須賀市の経済情勢をよりよくしていくにはどうすべきか、考えを深める。

３．単元の指導計画（７時間扱い）

	(各時における学習の)ねらい（◇）・（具体的な活動を取り入れた）学習内容（◆）
1 本時	◇現在の横須賀市の経済情勢について課題を設定し、仮説を立て、検証するためにどのような情報が必要か考えよう。 ◆横須賀市の経済情勢について、追究する課題を設定する。 ◆既習事項や生活体験から、現在の横須賀市の経済情勢がどうなっているのか仮説を立てる。 ◆仮説を検証するためにはどのような情報が必要かを考える。
2 ～ 4	◇課題に関する情報を集め、単元の最初に設定した課題を追究する。 ◆設定した課題を解決するために、文献やインターネットを活用して情報を集める。 ◆市役所職員や大学生・大学教授などをゲストティーチャーとして招き、インタビューする。 ◆課題を追究した成果を発表する準備を行う。
5	◇追究した成果を発表しよう。 ◆追究した成果を発表し合い、単元の最初に設定した課題への考えを深めていく。
6 ～ 7	◇横須賀市の経済をよりよくしていくための方策を提案しよう。 ◆集めた情報を分析して見出した横須賀市の経済における課題を克服するための方策を追究する。 ◆考えた方策を発表し合い、単元の最初に設定した課題に対する考えを深めていく。

Ⅱ　本時の指導計画

１．本時の目標　○現在の横須賀市の経済情勢について、追究する課題を設定し、学習した内容や生活体験を基に仮説を立てることができる。
○立てた仮説が正しいかどうかを検証するために、どのような情報が必要かを考えることができる。

２．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	①前回の単元で学習した内容を振り返る。 ②現在の横須賀中央エリアの写真を見て、横須賀市の経済情勢がどうなっているのか、考える。 Ｓ：閉店しているお店がいくつかあるね。 Ｓ：でも行列ができている人気店もあるよ。 Ｓ：市外から来ている人はどのくらいいるのかな？ ③本時の課題を確認する。 学習課題　横須賀市の経済の状況について課題を設定し、仮説を立て、検証するためにどのような情報が必要か考えよう。 Ｔ：前の単元では、国全体の経済について学習してきました。では、横須賀市の経済の情勢はどうなっているのだろう？ Ｓ：国全体では新型コロナウイルスの影響で成長率が低くなっていた。きっと横須賀市も同じだと思う。 Ｓ：確かに、出かける人や、買い物に行く人も減っているとニュースでもやっていたよ。 Ｓ：でも写真を見ると、結構人も集まっているし、横須賀市は少し回復してきたのでは？ Ｔ：今回は、横須賀市の経済の情勢がどうなっているのか、追究してほしいと思います。では、４人班で課題を設定してみよう。	地域等の課題に気付く
展開	④４人班で話し合い、課題を設定する。 （課題の例【横須賀市の経済も国全体と同じように落ち込んでいるのだろうか？】） ⑤設定した課題に対する仮説を、個人で考える。 ⑥各自の仮説を４人班で話し合う。 Ｓ：私は、横須賀市の経済情勢は回復してきていると思う。写真を見ると、新しく開店しているところも多いみたい。 Ｓ：私は、横須賀市の経済も落ち込んでいると思う。近くのお店でも閉店してしまったところがあるから。 ⑦立てた仮説を検証するために、どのような情報が必要か、話し合い、考える。 Ｔ：では、仮説を検証するためには、どのような情報が必要かな？ Ｓ：観光客の人数が分かればいいんじゃないかな？ Ｓ：お店の開店数や会社の倒産件数も必要じゃない？ Ｓ：税金の収入はどうなっているんだろう？ Ｓ：失業率とかも知りたいね。 ⑧他の班が話し合った結果を見に行き、自分の班に取り入れられるところがあれば、追加する。	課題について考える 横須賀市の経済情勢について立てた自らの仮説を検証するために必要な情報を、多面的・多角的に考察し、表現している。（思考・判断・表現） **「目指す子どもの姿」** **自分たちの住む横須賀市に関心をもち、設定した課題に対して立てた仮説を検証するために必要な情報を、既習事項や生活体験を活用して考え、話し合うことができる姿**
まとめ	⑨次回以降の予定を確認し、単元の見通しをもつ。 ⑩振り返りカードに本時で学んだ内容を記述し、本時のまとめを行う。	

Ⅲ　政治的教養を育むための指導・支援のポイント

ポイント1　「再構築」を生み出す有効的なグループ活動「あなたはどう思う？」

グループでの話し合い活動では、それぞれの考えを聞くことができ、自分の考えを再構築する場面として、とても有効的な方法です。限られた時間の中で、自分と違った意見を聞くことができたり、同じ意見でも課題解決に向けたプロセスが違っていたり、友だちの考えから自分の考えを再構築することができます。自分の考えを、根拠・理由とあわせて伝えることも大切です。

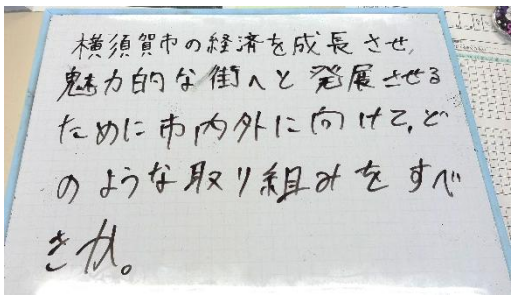
また、自分の意見を表出することが苦手な生徒も発信することができるよう、「あなたはどう思う？」とお互いに声をかけあうことや、日頃から少数意見や反対意見を大事にすることを伝えていきましょう。より活発な話し合い活動が期待され、思考の再構築へとつながります。



ポイント2　身近な教材から地域の課題を捉えるポイント「実感と想像のバランス」

地域の課題を捉え、その課題を解決するための提案には、「自分のこと」として捉えられず「他人事」の提案になってしまうことがあります。地域の実感を得ながらも、人的・経済的・文化的等の背景を想像し、大きな視野で課題を捉え、考えをめぐらす学習のプロセスが重要です。

そのためには、生徒自身が現地現場で得た情報や聞いたり、発見したりしたことを大切にしながら、地域の現状を把握することが大切です。生徒の気づきから課題の設定をすることが、「自分のこと」として地域の課題を考えることにつながります。



生徒自身が自主的に情報を得られるように、学校生活の登下校や日常生活の中で収集させるなど、現地の情報収集をする機会を設定することや、ＩＣＴを活用しインターネットから情報を得る方法などを紹介し、実践につなげましょう。

現地で得た情報をもとに、さまざまな人の立場となり想像をすることで、より現実的な地域の課題を捉えることができます。「実感と想像のバランス」を考え、指導計画を立てることがポイントです。

Ⅳ　研究協議

１．自評

課題を自分たちで設定することを目的にしてきた。今回、経済・産業の視点から、生徒自身の日常生活の経験を踏まえ、学校近隣の飲食店や商店の写真、横須賀市の状況を伝える新聞記事などを提示資料とし、横須賀市の課題を捉えさせ、考えさせたいと思った。グループでの話合い活動を通して、周りの生徒の考えをふまえ、再構築していきたいと考えた。これまでの授業でも、仮説を立てて立証していくという活動を取り入れてきた。そのプロセスを通した課題設定ができたのではないか。

２．研究協議のテーマ　＊令和３年度は共通テーマで協議を実施。

〇提案授業の生徒の姿から、「小・中学校における政治的教養を育む教育」で大切にしたい学習活動（学びのプロセス）は、効果的に取り入れられていたといえるか。

３．研究協議の成果と課題

成果・「経済」という観点から、政治的教養を育む教育（主権者教育）に挑戦することができた。

・生徒自身の生活のことに直結しているので、自分のこととして考えられる教材だった。また、生徒自身で課題を設定するという学習プロセスから、主体的に学習に取り組んでいる生徒の姿が見えた。

課題・教師が提示する資料によっては、生徒が考える課題が限定されてしまう場合もある。今回、生徒が「経済から地域の課題を考える」という学習テーマであったが、生徒の実態にふさわしい教材かどうか、より精選して資料を提示する必要がある。